

## 2. 子どもと公民館

現代の子どもをとりまく社会状況はたえず流動しており、いろいろな意味でせわしい子ども達が多くなったように感じる。

公民館では、孤立し、ますます人との関わりが持たなくなってきた子ども達の自発的・自主的能力を回復させ、仲間との協力や働きかけのできる人間形成のために子ども対象の事業を実施している。

公民館での子ども事業の特色として挙げられるのは、まずひとつめに、児童館が開館（昭和60年に田園児童館、平成8年に武蔵野台児童館）している現在でも、3館ある各公民館で子ども事業が実施されていることである。児童館の開館に伴い事業を実施しなくなるのではなく、公民館として子どもと関わっていくことが重要であると考えているからである。

ふたつめに、野外をステージとした事業と合唱団育成事業のふたつの柱で事業が展開されてきたことである。

ここで、昭和62年度から平成8年度までの10年間の主催事業を簡単にふりかえってみたい。

昭和60年度からはじまった「3館合同キャンプ」が昭和63年度までの4年間にわたり実施された。各館で実施されている教室の参加者が一堂のもとに集まり宿泊を伴って実施されたことは、参加者自身や各教室そのものに相互に影響を与え、感化しあうよい機会であった。

また教室の名称変更はあるものの、現在でも継続実施されている教室があることも見落とせない。「サバイバル教室」は、昭和54年度松林分館でスタートしたが、平成5年度より本館で実施された。平成3・4年度は実施しなかったものの、平成7年度から「アドベンチャー教室」へと名称変更し継続実施されているのである。この事業は、夏休みの時期に実施され、学校・学年という枠を越え

たところで、より深い仲間集団を形成し、地域社会で活躍できるリーダー育成の場となっている。野外での実践がふんだんに取り込まれ、宿泊を伴ったプログラムを組んでいる。

前述されているが、それまで松林分館で実施されていた「サバイバル教室」が平成5年度から本館で実施された関係で、昭和60年度から実施されていた「子どもアウトドア教室」が平成4年度をもって実施されなくなった。

逆に新たな事業として「児童合唱教室」が平成6年度より実施されている。

この事業は、前年度（平成5年度）に実施された『市民オペラ・カルメン』上演に伴い組織された「TAMAらいふ21ふっさカルメン児童合唱団」の参加者からの多数の要望を受けて、児童合唱団設立を目的とした児童合唱教室として実施されている。教室の内容としては、自主グループのための下地づくりとしての発声練習、年に一度の練習の成果を感じとる場として定期発表会が実施されている。また、市民でつくる市民音楽祭や文化祭への参加、フランスから来日した「パリ木の十字架少年合唱団」との共演もあった。

このように着実に自主グループとしての力をつけてきている児童合唱教室は、平成10年度からは自主グループとして活動する予定である。

子どもの自主的グループの確立、そして、合唱団を卒団していく子ども達が青年になり側面で支えていく、新たな子どもの自主グループ活動の展開。今後の公民館そして地域を支えていく原動力になる可能性を秘めているといえよう。

さて、この10年をふりかえって見える重要なことは、継続して実施されている事業の参加者が、青年となり再びリーダーとしてその講座に関わっているという点である。つまり子ども事業は、ただ単に子どもという階層のためだけではな

く、長い目で見ると地域社会を担う人材育成の場であるといえよう。

今後の課題として、2館ある児童館との連携をどう深めていけるか、公民館で実施する事業の質をどうするべきか、忙しい子どもと公民館との関わり方をどう考えていくか、などであろう。

\*\*\*\*\*

## 「児童合唱教室に参加して」



児童合唱教室参加者

吉沢佳江

私は「福生市児童合唱教室」に参加しています。そこには、小学校3年生をはじめ中学2年生までの人々がいます。私は、最高学年としてしっかりとやらなくてはいつも思っています。

しかし、最高学年としてやらなくてはいけないこととは何なのかわかりません。毎週のように土曜日に2時間の練習をすることはとてもきついのかもしれません。

でも、児童合唱教室には、他の学校からたくさんの人々が練習をしにきています。私はたくさんの友達ができました。今、私にとって児童合唱教室はたくさんの友達に会えるところ、大好きな歌を歌えるところです。だから、毎週のようにある練習が楽しみ、そう思っています。

2時間もあつ練習。児童合唱教室に参加をしはじめた頃は私にとってとてもきついな練習でした。その頃、私は小学生だったので『学校の友達と遊びたい』『2時間も練習はきついな』とっていました。発表会が近づくと、練習はふだん以上にきつくなりました。

しかし、私にはその練習が“楽しい”と思えて

きたのです。どうしてなのかわかりません。ただ、練習をしていくうちにたくさんの歌を覚え、歌を楽しいと、また、練習を楽しいと思えたからそう言えるのかもしれません。

この児童合唱教室は、歌が好きな人達の集まりです。その人達の中でさえも2時間の練習がきついと思う人達がいると思います。

だからこそ、そのつらかった気持ちを知る私達が歌の楽しさや練習の楽しさを最高学年としてしっかりと教えてあげなくてはいけないと思います。

今、私達「児童合唱団フレンズ」は、4回目の発表会に向けて練習をしています。

きっとまた、練習が辛い、きついと思っていた人達の中で練習が楽しいと思える人が出てくるでしょう。

そしてこの気持ちはこれからも受け継がれると思います。

福生市公民館主催事業  
**児童合唱団フレンズ**  
～第4回定期発表会～  
会場: 秋川キララホール

七つの子  
五羽のつばめ  
サウンド・オブ・ミュージック

日時: 平成10年3月15日(日)  
開場: 午後1時  
開演: 午後1時30分

☆入場無料  
入場整理券は福生市民会館窓口にて配布中です  
☆お問い合わせ  
福生市公民館TEL552-1711まで

## 台風キャンプの思い出

元担当職員 中根 浩

平成5年8月26日、強い日差しの中、公民館に集合した子ども達を前に、キャンプを中止したほうがよいのか……とTCNのお天気ニュース画面をぼんやりと見ていた。こんなにいい天気なのに、本当に台風が直撃するのだろうか。

子ども達の反応はというと、絶対に行きたいという子ども達多数と、やや不安顔な子ども若干名。

そろそろ決断を下さなければならない。上司や同僚の助言を仰ぎつつ、小菅村の平山キャンプ場に相談をし、バンガローの空きを確認する。

計画では2泊ともテント泊まりの予定であったが、バンガロー泊まりに変更し、実施することを決定した。

子ども達に対しては、二通りの対応をした。行きたくないと思う子は参加しないでほしい。行きたい子は親の確認をとる。

こうして、6年生の女子を中心に何人かが抜けてしまったものの、小菅村へ向けて出発した。

1日目の夕方から雨が降りだし、風が強くなってきた。やはり予報は当たっていた。いよいよ台風キャンプのはじまりだ。

釜場、テーブルともに屋根が施してあり、煮炊きや活動に支障はない。

夕食後、子ども達をバンガローにつっこみ、私は外で徹夜を覚悟した。

公民館では子ども達の保護者に対し、元気に活動していることを電話連絡してくれている。とてもありがたかった。

風と雨がものすごい。私は裏の山がくずれないか、下の川が増水していないか注意深く観察しキャンプ場の見回りをする。

深夜にトイレに起きる子ども達を誘導する。事故のないことを必死な思いで祈った。

未明に暴風雨圏は過ぎたようだ。ヤマネが一匹

出没する。ほっとする。

8月27日、1日雨が残る。前夜の激しさはないものの、活動はバンガローの中でのレクリエーションが中心となる。一つのバンガローが排水の悪さから靴脱ぎ場の所まで浸水する。急遽、排水用の溝をバンガローまわりに掘り、難を逃れる。リーダー達の機敏な動きは心強い。

夕方、雨が上がり、山裾にきれいな虹がかかった。

さあ、いよいよキャンプファイヤーだ。今までのうっぶんを晴らすかのようにみんなで盛り上がった。

8月28日、朝から晴天。川を観察にいくと、台風あとにもかかわらず、増水もなく、水もにごっていなかった。管理人さんに聞くと、ここは増水することはないという。すこし気温が低かったが、川遊びを計画どおり実行する。

子ども達は元気に楽しんだ。台風の中、子ども達もかなり緊張していたのだろう。それを乗り越えた今、なんだか、ひと回りもふた回りも成長したような、そんな気がしてきた。子ども達の笑顔と青年リーダーの力量に支えられ、事業は成り立っていく。

はたしてキャンプを決行したことが良かったのか、中止を決断する勇気も必要ではなかったか。そんな思いが今も頭をかすめる。



# 昭和62年度

合同キャンプ

期 間 昭和62年 8月19日(水)～21日(金)

場 所 五日市町青少年旅行村

	8・19	8・20	8・21
6:30～7:00		朝 の つ ど い	
7:00～9:30		朝	食
9:30～12:00		選択プログラム ① 川で遊ぶ ② 山で遊ぶ ③ ものをつくる ④ 鍾乳洞めぐり	(昼食含む) 清掃・片付
12:00～13:00	開 村 式 11:40 昼 食		昼 食
13:00～16:00	自由プログラム		閉 村 式 13:00
16:00～18:30	夕	食	
18:30～21:00	合同プログラム きもだめし	合同プログラム キャンプファイヤー	
21:00～22:00	反 省 会		

講 師 各教室の実技指導者

参加者 本館「子どもアウトドア教室」 29人 松林「子ども教室」 18人  
白梅「たんけん教室」 14人 松林「サバイバル教室」 5人

計 66人×3日=198人

子どもアウトドア教室

期 間 昭和62年 6月6日(土)～8月26日(水) 午後2時～4時 全13回

会 場 公民館集会室及び野外

参加者 41人×13回=533人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 6	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介、ゲーム	
13	草花たんけん	草花丘陵ハイキングで仲間づくり	担当職員
27	滝山たんけん	滝山ハイキングで仲間づくり	
7. 4	ウォークラリーに挑戦	ウォークラリーで市内を知る	久保山 佳 奈
11	カレーをつくろう	自分たちの力でカレーをつくってみる	
18	キャンプ準備 I	アウトドアキャンプへ向けて班会議	井 上 孝
22	" II	"	
27	アウトドアキャンプ	五日市町戸倉キャンプ場でキャンプ	沢 村 雅 人
28			
8. 5	うどんづくりで反省会	うどんづくりとキャンプの反省会	小 泉 喜 由
12	キャンプ準備 I	合同キャンプへ向けて班会議	
17	" II	"	石 川 太 郎
19	合同キャンプ		
20	-三館の子ども	五日市町青少年旅行村での合同キャンプに	
21	たちが集合-	参加	
26	反 省 会	表彰式・まとめ	



# 昭和63年度

合同キャンプ

期 間 昭和63年 8月18日 (木) ~20日 (土)

場 所 奥多摩町川井キャンプ場

	8・18	8・19	8・20
6:30~7:00		朝 の つ ど い	
7:00~9:30		朝 食	
9:30~12:00	開 村 式 11:40	選択プログラム ① 川で遊ぶ ② 山で遊ぶ ③ そば・うどんをつくる ④ 鍾乳洞たんけん	清掃・片付
12:00~13:00		昼 食	昼 食
13:00~16:00	自由プログラム		閉 村 式 13:00
16:00~18:30	夕 食		
18:30~21:00	合同プログラム 映 画 会	合同プログラム キャンプファイヤー	
21:00~22:00	反 省 会		

講 師 各教室の実技指導者

参加者 本館「子どもアウトドア教室」 36人

松林「子ども教室」 6人

「サバイバル教室」 10人

白梅「たんけん教室」 9人

計 61人×3日=183人

子どもアウトドア教室

期 間 昭和63年 7月28日 (木) ~9月1日 (木)

午後2時~4時 全9回

会 場 公民館集会室及び野外

参加者 39人×9回=351人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 28	なかまを知ろう!	オリエンテーション、自己紹介	担当職員 久保山 佳 奈 沢 村 雅 人 石 川 太 郎 小 泉 喜 由
30	キャンプって 何だろう?	キャンプとは、班分け、班会議	
31	デイキャンプで カレーづくり	柳山公園でカレーライスづくり	
8. 4	外にでてみよう!	草花丘陵をハイキング	
11	キャンプ班会議だ!	合同キャンプ班会議 (役割分担等)	
17	キャンプ最終チェック	〃 (スタンツ等)	
18			
19	合同キャンプ	合同キャンプに参加	
20			
25	キャンプ反省会	合同キャンプの反省	
9. 1	うどんづくりで さようなら	うどんづくり、まとめ	

子どもチームワーク教室 時間 昭和63年12月21日(水)～平成元年2月22日(水)  
午後2時30分～4時30分 全10回  
会場 公民館及び野外  
参加者 15人×10回=150人

月 日	内 容	講 師
12. 21	オリエンテーション、自己紹介	担当職員
22	ボールゲーム等によるなかまづくり	
24	〃	
25	クリスマス・パーティ	
1. 11	ボールゲーム等によるなかまづくり	
25	〃	
2. 1	〃	
8	〃	
15	〃	
22	〃	

## 平成元年度

子どもアウトドア教室 期間 平成元年7月13日(木)～8月31日(木)  
午後2時～4時 全9回  
会場 公民館本館及び野外  
参加者 33人×9回=297人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 13	なかまを知ろう!	オリエンテーション、自己紹介	担当職員 小倉佳奈 沢村雅人 小泉喜由 石川太郎 斉藤貢司 田辺伸一 白石貴子
20	キャンプって何だろう?	キャンプとは、班分け、班会議	
27	デイキャンプ	柳山公園でカレーライスづくり	
8. 3	酒蔵探検	石川酒蔵見学	
10	キャンプ班会議だ!	役割分担等を決定	
17	〃	スタンプ等を決定	
21	キャンプ最終チェック	もちもの、役割分担を班で確認	
23	アウトドアキャンプ	奥多摩アメリカキャンプ村にて2泊3日のキャンプを実施	
24			
25			
31	キャンプ反省会	キャンプの反省	

夏休み工作教室「新聞紙でつくるはりこ」 期間 平成元年8月24・25日 午後2時～4時30分  
参加者 26人×2回=52人

月 日	内 容	講 師
8. 24	新聞紙をまるめて動物の形にする。和紙をはりつける。	木住野利明 (造形作家)
25	絵付け	

冬の工作教室 「折ってくる紙の動物」

期 間 平成元年12月20・21日

参加者 10人×2回=20人

月 日	内 容	講 師
12. 20	テキストをもとに、紙工作の基本から応用まで	池 水 宗太郎 (福生第一小学校)
21	〃	

## 平成2年度

子どもアウトドア教室

期 間 平成2年7月26日(木)～8月30日(木)

午後2時～4時 全7回

会 場 公民館本館及び野外

参加者 30人×7回=210人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 26	なかまを知ろう!	オリエンテーション、自己紹介	担当職員
8. 2	ウォークラリー!	中央公園にてウォークラリー	
9	カレーライスをつくろう	中央公園にてカレーづくり	小 倉 佳 奈
16	キャンプ班会議だ!	役割分担等を決定	沢 村 雅 人
20	〃	スタンプ等を決定、最終チェック	斉 藤 貢 司
22	アウトドアキャンプ	奥多摩アメリカキャンプ村	金 子 佳 世
23		2泊3日のキャンプを実施	
24			
30	キャンプ反省会	キャンプの反省	

### 夏休み工作宿題対策室

期 間 平成2年8月8日～16日 水曜・木曜日 午前10時～正午

参加者 3人×4回=12人

講 師 榎 本 隆

### 夏休み工作教室「動物組み木をつくろう」

期 間 平成2年8月29日(水)・30日(木) 午前10時～正午、午後1時～4時

参加者 15人×4回=60人

内 容 小黒三郎先生のデザインによる動物組み木の製作

## 平成3年度

子どもアウトドア教室 期 間 平成3年8月1日(木)～9月5日(木)  
午後2時～4時 全5回  
会 場 公民館本館及び野外  
参加者 31人×5回=155人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 1	なかまを知ろう!	オリエンテーション、自己紹介	担当職員
8	キャンプ班会議	役割分担等を決定	小 倉 佳 奈 斉 藤 貢 司 山 本 真 貴 子 五内川 明 子
15	〃	スタント等を決定、最終チェック	
29 30	アウトドアキャンプ	奥多摩アメリカキャンプ村にて 1泊2日のキャンプを実施	
9. 5	キャンプ反省会	キャンプの反省	

夏休み工作教室「大きなお面をつくろう」 期 間 平成3年8月22日(木)・29日(木) 午後10時～正午  
参加者 28人×2回=56人

月 日	内 容	講 師
8. 22	枝うちから造形、絵づけまで	木住野 利 明 (造形作家)
29	〃	

冬の工作教室 「竹でつくる」 ～竹とんぼ・竹うまを作ろう～  
期 間 平成3年12月19日・20日 午後2時～4時  
参加者 16人×2回=32人

冬の工作教室 「竹でつくる」 ～オリジナル凧を作ろう～  
期 間 平成3年12月26日・27日 午前10時～午後4時  
参加者 15人×4回=60人

## 平成4年度

子どもアウトドア教室  
期 間 平成4年8月12日(水)～9月2日(水) 午後2時～4時 全5回  
会 場 公民館本館及び野外  
参加者 25人×5回=125人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 12	なかまを知ろう!	オリエンテーション、自己紹介	野 口 祐 貴 山 本 真 貴 子 丸 山 和 代 石 川 太 郎 森 田 義 典 担 当 職 員
19	キャンプ班会議	メニュー、役割分担をきめる	
24	〃	スタント等決定、最終チェック	
26 28	アウトドアキャンプ	五日市町青少年旅行村にて 2泊3日のキャンプを実施	
9. 2	キャンプ反省会	キャンプの反省	



### 夏休み工作教室「動物組み木をつくろう」

期 間 平成4年8月10日（月） 午後1時～4時  
 内 容 小黒三郎先生デザインの動物組み木をつくる  
 参加者 15人

### 冬の工作教室「竹とんぼをつくろう」

日 時 平成5年2月11日（祝） 午後2時～4時  
 参加者 5人

## 平成5年度

### 夏休み工作教室「リサイクルの手作りアート」

期 間 平成5年8月20日（金） 午後1時～4時  
 参加者 15人×1回=15人  
 内 容 牛乳パック、ヤクルトやヨーグルトのから、トイレットペーパーやラップの芯、空き箱など、家にある廃材を利用した造形  
 講 師 中 沢 潮（造形作家）

### サバイバル教室

期 間 平成5年7月20日（火）～9月7日（火）  
 毎週火曜日 午後2時～4時 全9回  
 会 場 公民館、多摩川中央公園、小菅村平山キャンプ場  
 参加者 25人×9回=225人

月 日	内 容	講 師
7. 20	オリエンテーション、自己紹介、室内ゲーム	佐 藤 陽 介、中 井 和 幸
27	ロープワーク、野外ゲーム	
8. 3	小刀を使って	
17	カレーづくり	
24	キャンプ打ち合わせ	
26	サバイバルキャンプ	佐 藤 陽 介、中 井 和 幸 佐久間 直 冬、佐 藤 克 年 村 井 基 樹、向 山 千 絵
27	〃	
28	〃	
9. 7	反省会	佐 藤 陽 介、中 井 和 幸

## 21ぶっさカルメン児童合唱団

TAMAらいふ21 オペラ『カルメン』上演にともない子どもの合唱活動を組織化し、合唱団の育成とカルメン出演に向け実施した。

期 間 平成5年4月10日(土)～9月19日(日) 全35回  
 会 場 公民館本館、市民会館大ホール、府中の森芸術劇場  
 参加者 40人×35=1,400人  
 内 容 発声から曲づくり、立ち稽古まで、童謡フェスティバル参加  
 講 師 高橋逸子(福生6小教諭)・小田切洋子(ピアニスト)

\*子ども達の活動を側面から援助するために保護者会を期間中月1回実施した

## 平成6年度

### 冬休みの工作教室「新聞紙でつくる動物」

期 間 平成6年12月27日(火)、平成7年1月5日(木) 全2回  
 午前10時～正午  
 講 師 来住野利明(造形作家)  
 参加者 6人×2回=12人

### サバイバル教室

期 間 平成6年7月14日(木)～8月25日(木)  
 毎週木曜日 午後2時～4時 全9回  
 会 場 公民館、多摩川中央公園、奥多摩境溪谷キャンプ場  
 参加者 22人×9回=198人

月 日	内 容	講 師
7. 14	オリエンテーション・自己紹介・室内ゲーム	佐久間 直 冬・井 上 武
21	魚つかみどり・調理	佐 藤 陽 介・中 井 和 幸
28	デイキャンプ	佐久間 直 冬・名々井 美 帆 井 上 武・佐 藤 陽 介 中 井 和 幸・八重樫 伊知郎
8. 5	デイキャンプ	佐久間 直 冬
11	キャンプ準備会	村 井 基 樹
18	サバイバルキャンプ	井 上 武
19	"	佐 藤 陽 介
20	"	中 井 和 幸
25	反省会	佐久間 直 冬・井 上 武 佐 藤 陽 介・中 井 和 幸

## 児童合唱教室

期 間 平成6年5月14日(土)～平成7年3月25日(土)

毎週土曜日 午後2時～4時 全34回

参加者 34人×33回=1,122人

内 容 発声から曲づくり、発表会

講 師 高橋逸子(福生6小教諭)・小田切洋子(ピアニスト)

## 平成7年度

### アドベンチャー教室

期 間 平成7年7月14日(金)～8月24日(木) 午後2時～4時及び全日 全9回

会 場 公民館、市内日光橋公園、滝山丘陵、奥多摩境溪谷キャンプ場、  
奥多摩バットレスキャンプ場

参加者 19人×9回=171人

月 日	内 容	講 師
7・14	オリエンテーション・自己紹介	佐久間 直 冬・村 井 基 樹 井 上 武
20	岩山に登る	佐久間 直 冬・井 上 武 佐 藤 陽 介・中 井 和 幸
29	魚のつかみどり・調理	佐久間 直 冬・村 井 基 樹 佐 藤 陽 介・中 井 和 幸
8・9	キャンプ準備会	佐久間 直 冬・村 井 基 樹
10	アドベンチャーキャンプ	井 上 武・佐 藤 陽 介
11	〃	矢 部 由 紀 乃・永 井 洋 子
12	〃	
15	ロープ遊び	佐久間 直 冬・村 井 基 樹 井 上 武・佐 藤 陽 介
24	反省会	佐久間 直 冬・井 上 武

### 岩山に登ってみよう

期 間 ① 平成7年5月11日(木)～5月31日(水)

② 平成7年9月27日(水)～10月28日(土)

\*①②とも午後2時～4時および午前10時～12時

①全6回 ②全5回

会 場 市内日光橋公園

参加者 ①8人×6回=48人

②7人×5回=35人

講 師 佐久間直冬

### 児童合唱教室

期 間 平成7年5月13日(土)～平成8年3月31日(日)

毎週土曜日 午後2時～4時 全46回

会 場 公民館・福生第3小学校・青梅青年の家

参加者 40人×46回=1,840人

内 容 発声から曲づくり、発表会、他団体との共演

講 師 高橋逸子(福生6小教諭)・小田切洋子(ピアニスト)

## 平成8年度

### アドベンチャー教室

期 間 平成8年7月17日(水)～8月28日(水)

午後2時～4時及び全日 全9回

会 場 公民館、市内日光橋公園、滝山丘陵、奥多摩バットレスキャンプ場

参加者 22人×9回=198人

月 日	内 容	実 技 指 導 員
7. 17	オリエンテーション・自己紹介	佐久間 直 冬・村 井 基 樹 井 上 武
27	ロープ遊び	佐久間 直 冬・井 上 武 井 上 武
8. 1	岩山に登る	佐久間 直 冬・井 上 武
8	キャンプ準備会・デイキャンプ	井 上 武
21	キャンプ準備会	佐久間 直 冬・村 井 基 樹 井 上 武
22	アドベンチャーキャンプ	佐久間 直 冬・村 井 基 樹
23	"	井 上 武・佐 藤 陽 介
24	"	
28	反省会	佐久間 直 冬・井 上 武 佐 藤 陽 介

### 児童合唱教室

期 間 平成8年4月13日(土)～平成9年3月28日(金)

毎週土曜日 午後2時～4時 全47回

参加者 42人×47回=1,974人

内 容 発声から曲づくり、発表会、他団体との共演

講 師 高橋逸子(福生6小教諭)・小田切洋子(ピアニスト)

### 中学生のための茶道教室

日 時 平成9年3月8日(土)

会 場 茶室「福庵」

参加者 10人

月 日	内 容	指 導 者
3. 8	初めての方へ「お茶の世界への誘(いざな)い」	福生市茶道連盟



### 3. 青年と公民館

資料調査室

昭和52年の公民館開館以来、福生での公民館活動を支えてきたのは間違いなく青年であった。

ところが、ここ10年の社会状況の変化とともに青年の活動形態が大きく変わっていく中、公民館と青年とのつながりは希薄になってきていることは否めない。

公民館でなぜ青年事業を取り組むのかを考えた場合に、青年期特有の「アイデンティティの確立」を同じ年代の青年同士で共に悩み考え合う機会をつくることで切磋琢磨ができるからだと考えられる。

しかし、ここ10年の公民館と青年との関わりを見ていくと、まず公民館とのパイプであった福生市青年団体連絡協議会（以下“青連協”と略す）が平成3年をもって消滅したことで公民館と青年との関わりは実質的になくなってしまったと言わざるを得ないであろう。

この青連協は、当時、勢いのあった青年サークルがさらなる青年活動の充実をめざし、市内の青年サークル「土筆の会」「さんしょうの会」「フォークダンス愛好会」の3団体が中心となり、青年団を交えて昭和43年5月に結成されている。公民館建設活動を含め、市民を巻き込んでの充実した社会教育活動を支え中心的役割を担ったのはまちがいなく青連協であった。

この青連協の目的は「各サークル相互の連絡・連携・協力を通して、相互の育成、推進をはかりつつ、青年として自らが向上しながら広く地域の学習・文化活動の振興、推進を目指す」というものであった。

青連協の活動は、毎週の定例会での相互の情報交換、サークル対抗スポーツ大会、公民館との共催でリーダー研修会、若い市民の講座の実施、機関紙等の発行を行っていた。

しかし、移りゆく社会背景に後押しされるよう

に青年活動は衰退していく。そのことに伴い青連協は平成3年に消滅したのである。

ここで公民館で実施されてきた10年間の主催事業をふりかえてみたい。

毎年、成人式に向けて実施していた「成人のつどい実行委員会」は参加者が集まらなくなったことをうけて昭和62年度から公民館で実施できなくなってしまった。

この背景には、まず自主的な青年の活動意欲がなくなってしまったことが考えられるが、大きな要因は個人で何でもできるようになってしまったことや、極端な話、人との関わりを持たなくても生きていける社会になってしまったことであろう。

しかしながら、これらの状況に指をくわえているだけでは何の解決にもならないので、これらを打破すべく現代の青年のニーズにあった事業を展開していくべきであろう。

また、ここ10年での特徴的な事業を見てみると、昭和62・63年度は「中国語会話」「中国文化」「英会話」が実施されている。

さらに「ボランティア体験講座」が昭和62年度から平成4年度まで福生市社会福祉協議会との共催で実施されていたが、平成5年度より福生市社会福祉協議会に移管され公民館では実施されなくなった。

ここ10年の中で「とびっきりおいしいコーヒーいれま専科」「ザ・マジック」「タップダンス教室」「フリークライミング教室」などの趣味の講座がほぼ毎年実施されていることも特徴のひとつであろう。

また、青年の主体的な研修会・実行委員会等の事業が実施されなくなったことも挙げられる。

さらには、実施された事業からの継続的な活動（自主サークル）が皆無であり、地域社会と青年

達とのつながりという面からも分断されてきている。

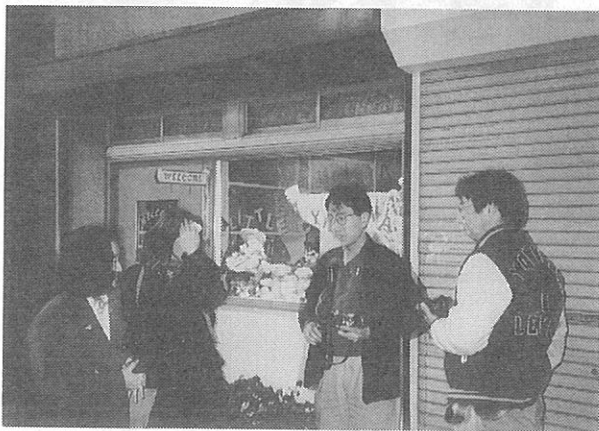
ではどうしてそうなってしまったのかを考えると、物が豊かになった代償が心の貧しさを生みだし、地域社会に背をむけることにつながったこと、さらには、青年の個人主義という現代青年独特の現象や公民館事業そのものにとってかわるカルチャースクールの進出が原因ではないかと推測される。

当然、公民館としての事業の多様性・独自性を前提に青年にとって関心のある事業を展開できなかった、また、職員と青年との関わり方といった公民館の責任もあるのだが。

現在は、青年の関わりが自主サークルといった形だけではなく、子どもとの関わり（リーダーやボランティアとして）や他の階層（障害者や成人など）との関わりの中で見られる。

このことから、青年のニーズにあった多様な事業との連携のうえでもあらためて青年活動を考えていく必要があるのではないだろうか。

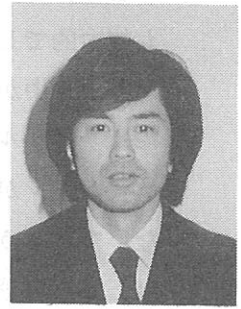
ボランティア活動やカルチャースクールという名の教室が民間組織で展開されてきている今日、公民館が青年に果たす役割を今一度見つめ直し、公民館、あるいは地域社会を担っていく青年の重要性を再認識しなければならない時期に来ているといえよう。



ヤングカレッジ「自分の福生を写してみよう」

## 「これからの青年はどこへ行く」

元福生市青年団体  
連絡協議会会長  
綿貫和男



平成3年に消滅するまで、福生の青年活動を支えてきた福生市青年団体連絡協議会（以下“青連協”と略す）の綿貫和男氏に当時の青年と公民館との関わりについてお話をいただき、また、今後の展望を伺いました。

——綿貫さんは、どのような形で公民館と関わりを持っていたのでしょうか？

綿貫： 青連協はいろいろな青年のサークルの連合体として昭和43年5月に発足し、各青年サークル相互の連絡・連携・協力を通して、相互の育成・推進をはかっていました。私の所属していた「サークルななよん」も青連協に加盟していたサークルの一つで昭和49年に加盟しました。

当時の青年活動の中に、青年達の活動拠点の場として公民館建設運動に力を入れていて私も関わっていました。

——すると、公民館活動への意識というよりも、青年の活動そのものが自然発生的に公民館建設や地域での活動・青年活動につながっていたということですね。

綿貫： そうですね。

——当時の青年の様子についてぜひお話をいただきたいのですが……。

綿貫： 当時の青年達は、大きく分けて文化系と学習系のグループに分けられます。一言で言うとハングリーでした。好奇心が旺盛でいろいろなことをやってみたい、知りたい。このことが自主的な青年活動を支えたんだ

と思います。

また、各サークルのカラーが様々でとても魅力的でしたし、いろいろな意見がぶつかりあう中からサークル相互の連帯、さらにはサークルを越えた人と人とのコミュニケーションが自然発生的に生まれたのではないのでしょうか。青年達は、自分達の公民館だから自分達で使いこなしていかなければならないと思っていました。だから、意識してこうだと思わなくても当たり前の感覚だったのでしょう。公民館開館後は、部屋の取り合いでぶつかりもしましたよ。そこで相互に調整をしなければならない。それが多くの集まりや活動につながっていったんです。とにかくアピール・自己主張をすることを大事にしていました。また、そういう人間が多くいたように思います。一生懸命やる、損得勘定抜きに没頭する人間がいたということです。

——では、青連協が公民館に果たしてきた役割は何だったのでしょうか？

綿貫： 果たしてきた役割をしいていえば、自分達の学習活動を充実させるためにやってきたことが、青年を中心に市民に広められたことではないでしょうか。そのことが結果的に公民館を活性化させられたのだと思っています。

——今の青年にメッセージを

綿貫： 伝えたいことはいろいろあるのですが、一言で言って「パッション」が大切ではないでしょうか？ 人と人が関わっていくのに大事なことは、まず自分自身の問題意識ではないかと思います。人との関わりの中での自己主張が減少し、ある意味、ものや個人での自己主張に変わっている現在、とにかく一生懸命やる気持ち、行動が大事だと思います。結果ばかり考えずに、その

プロセスを大事にしていったほうがいいですね。それが公民館の活動をするうえでのいいところだと思います。今いる立派なリーダーだって最初は0から始まったんです。

「気概・情熱」、これだと思います。人はそれぞれちがったキャラクターを持っています。そういういろいろな人達が集まって始まるところがとても大切でしょうね。

それから公民館職員も青年と深く関わり、パイプ役となっていくことも大事ではないでしょうか。これからの青年活動に期待しています。

——今日は綿貫さんに貴重なお話をいただきました。ありがとうございました。

青連協については、「公民館10年のあゆみ」にも掲載されていますのでご参照ください。



公民館ふっさの表紙で紹介されたタップダンスのサークル

## 昭和62年度

### 中国語会話講座

期 間 昭和62年7月16日（木）～12月23日（水） 午後7時～9時 全20回

会 場 公民館

参加者 18人×20回=360人

月 日	テ ー マ	講 師
7. 16	オリエンテーション、自己紹介	戴 晧 誠 (東海大学 留学生)
23	基本表現、発音	
30	機嫌を伺う、初対面のあいさつ	
8. 6	発音（四声、子音、母音）	
13	〃	
9. 10	〃	
17	中国を紹介したビデオの観賞	
25	面会の仕方	
10. 1	〃	
8	〃	
15	質問の仕方	
22	〃	
29	期日の表現	
11. 12	〃	
19	〃	
26	時刻の表現	
12. 4	〃	
10	〃	
17	再会のあいさつ	
23	まとめ（中国料理の調理と話しあい）	

### 青少年ボランティア講座

期 間 昭和62年6月6日（土）～8月1日（土）

午後2時半～4時半 全5回

会 場 公民館

参加者 27人×4回=108人

月 日	内 容	講 師
6. 6	ボランティアってなあに？	榎 ひさ恵（日本青年奉仕協会）
13	障害者とボランティア活動	山 下 勉（青梅学園園長）
20	老人とボランティア活動	馬 場 糸よ子（松楓園理事長）
27	これからはむけて	久保田 武 男（秋川市花さき村村長）
8. 1	活動体験学習説明会	



## 昭和63年度

### ヤングカレッジ「とびっきりおいしいコーヒーいれま専科」

期 間 平成元年 3月24日（金）午後7時30分～9時30分  
3月26日（日）午後1時～3時 全2回

会 場 公民館 他

参加者 11人×2回=22人

月 日	内 容	講 師
3. 24	オリエンテーション、コーヒーの歴史、種類について	田 村 颯 孝 (喫茶琥珀 店主)
26	コーヒーのいれ方の実習	

### ヤングカレッジ「中国文化」

期 間 昭和63年10月14日（金）～平成元年3月3日（金）  
午後7時30分～9時30分 全20回

会 場 公民館 他

参加者 7人×20回=140人

月 日	内 容	講 師
10. 14	オリエンテーション、自己紹介	戴 暁 誠 (東海大学留学生)
21	トラベル中国語会話	
28	中国の歴史、会話「天気について」	曾 紅 (学習院大学院留学生)
11. 11	会話「名詞、単語」	
18	会話「天気について」	本 田 緑 (太極拳のつどい)
25	中国料理の調理	
12. 2	ビデオ「ラスト・エンペラー」の鑑賞	上 野 邦 子 (太極拳のつどい)
22	ビデオ「西太后」の鑑賞	
23	ビデオ「西太后」解説、話し合い	中 村 絹 江 (太極拳のつどい)
1. 6	ビデオ「ラスト・エンペラー」解説、話し合い	
7	「中国の器展」の鑑賞	池 野 国 志 (桂花楼料理長)
13	太極拳	
20	太極拳、中国の子どもの遊びについて	池 野 国 志 (桂花楼料理長)
27	中国料理の調理	
2. 3	中国を紹介したビデオの鑑賞（気功、黄山）	池 野 国 志 (桂花楼料理長)
10	中国の美術について	
17	プロによる中国料理の調理	池 野 国 志 (桂花楼料理長)
18	横浜・中華街の散策	
22	中国の政治について	池 野 国 志 (桂花楼料理長)
3. 3	まとめ	

### いまだきのトラベル英会話

期 間 平成元年1月20日(金)～3月24日(金) 午後7時30分～9時30分 全10回

会 場 公民館

参加者 17人×10回=170人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 20	オリエンテーション	講座の説明、自己紹介	ヘレン・フーラ
27	トラベル英会話基本語句 I	トラベル英会話の基本	
2. 3	” II	”	
10	” III	”	
17	” IV	”	
24	アメリカンケーキをつくる	親睦をかねてケーキづくり	
3. 3	トラベル英会話実用編 I	トラベル英会話の応用	
10	” II	”	
17	” III	”	
24	フェアウェルパーティー	英語によるゲーム、まとめ	

### 夏のボランティア活動体験

期 間 昭和63年7月22日(金)～8月28日(月)

会 場 公民館および施設各所

参加者 91人

月 日	内 容	場 所	人 数
7. 22	説 明 会	公 民 館	20人
29～31	老人ホームボランティア	松 楓 園	4人
8. 1～5	保育園ボランティア	東福保育園	5人
1～5	”	若葉保育園	12人
2～6	”	ひこばえ幼稚園	7人
3～5	福祉作業所ボランティア	れんげ作業所	2人
13・27	おもちゃ図書館ボランティア	おもちゃ図書館	9人
17・18	老人ホームボランティア	サンシャイン・ビラ	11人
21	障害者学級ボランティア	一中プール	4人
27～28	障害児施設ボランティア	青梅学園	17人

こだわり講座「バレンタインは手づくりチョコで」

期 間 平成元年1月14日～2月4日 毎週土曜日 全4回  
 会 場 公民館調理室  
 参加者 10人×4回=40人

月 日	内 容	講 師
元. 1. 14	チョコレートクッキーの作成	加 藤 文 子
21	チョコレートナッツの作成	
28	チョコレートケーキの作成	
2. 4	トリュフの作成	

平成元年度

夏のボランティア活動体験

期 間 平成元年7月19日（水）～8月28日（月） 全11回  
 会 場 公民館本館およびボランティア受入れ施設  
 参加者 延べ71人

月 日	内 容	場 所
7. 19	説 明 会	公 民 館
	ボランティア受入れ施設 サンシャインビラ 青梅学園 若葉保育園 公民館障害者青年学級「にじのはらっぱ」 れんげ作業所 おもちゃ図書館	
8. 28	交 流 会	公 民 館

平成2年度

夏のボランティア活動体験学習

期 間 平成2年7月19日（木）～9月8日（土）  
 会 場 公民館およびボランティア受入れ施設  
 参加者 延べ60人

月 日	内 容	場 所
7. 29	講 演 会	公 民 館
	ボランティア受入れ施設 サンシャインビラ（老人ホーム） 青 梅 学 園（精神薄弱児施設） 若 葉 保 育 園 公民館障害者青年学級「にじのはらっぱ」 れ ん げ 園 福生おもちゃ図書館	
9. 8	交 流 会	公 民 館

青年ホビーカレッジ「ザ・マジック」

期 間 平成2年11月19日（月）～平成3年3月20日（月）

会 場 公民館

参加者 延べ50人

月 日	内 容	講 師
11. 19	スプーン曲げ、4つのグラスのあてもの、他	高 橋 邦 彦 (担当職員)
26	ダクハス、ひものマジック、他	
12. 3	サムチップ、ハンカチねずみ、他	
10	ひも切り、テレパシーカード、他	
1. 14	長さのちがう3本のひも、祭りばやし、他	
21	新聞やぶり、グライド、シルクのうそむすび、他	
28	フォアエース、リーディングカード、他	
2. 4	塩を使ったカードあて、新聞紙の表現、他	
18	6枚ハンカチ、オイルアンドウォーター、他	
25	デモンストレーション	

平成3年度

夏のボランティア活動体験学習

期 間 平成3年7月19日（金）～8月24日（土）

会 場 公民館およびボランティア受入れ施設

参加者 32人

月 日	内 容	場 所
7. 19	説 明 会	公 民 館
受入れ施設		
	サンシャインビラ	8月22日（木）～23日（金）1泊2日 10人
	公民館障害者青年学級 「にじのはらっぱ」	8月18日（日）日帰り・1日 3人
	れんげ園	8月21日（火）～22日（木）日帰り・2日 1人
	若葉保育園	8月12日（月）～17日（土）日帰り・6日 10人
	おもちゃ図書館	8月10日（土）・24日（土）日帰り・2日 8人



### タップダンス教室

期 間 平成3年5月13日(月)～7月1日(月)

会 場 公民館本館

参加者 17人×8回=136人

講 師 佐々木隆子、他インストラクター

月 日	内 容	講 師
5. 13	基本ステップ	佐々木 隆 子
20	基本ステップ	他、
27	曲合わせ	インストラクター
6. 3	〃	
10	仕 上 げ	
17	練 習 会	
24	〃	
7. 1	〃	

### 平成4年度

#### 92'夏!体験ボランティア

期 間 平成4年7月18日(土)～8月29日(土)

会 場 公民館およびボランティア受入れ施設

参加者 延べ158人

月 日	内 容	場 所
7. 18	説 明 会	公 民 館
受入れ施設		
	サンシャインビラ	8. 22(水)～23日(木) 1泊2日
	公民館障害者青年学級 「にじのはらっぱ」	8. 23(日) 日帰り
	れんげ園	7. 30(木)・31日(金) 日帰り2日
	若葉保育園	8. 3(月)～8日(土) 日帰り6日
	〃	8. 17(月)～22日(土) 日帰り6日
	〃	8. 24(月)～29日(土) 日帰り6日
	加美平保育園	7. 21(火)～8. 7日(金) 日帰り14日
	〃	8. 17(月)～28日(金) 日帰り10日
	福生おもちゃ図書館	8. 8(土)・22日(土) 日帰り2日

## 平成6年度

### ヤングカレッジ「自分の福生を写してみよう」

期 間 平成7年2月16日(木)～3月23日(木)  
毎週木曜日 午後7時30分～午後9時 全6回  
会 場 公民館・市内  
参加者 3人×6回=18人  
講 師 野村 亮

## 平成7年度

### フリークライミング入門教室

期 間 平成7年7月15日(土)～平成8年3月16日(土)  
午前10時～12時および午後7時～9時 全18回  
会 場 市内日光橋公園  
参加者 174人  
講 師 佐久間 直冬

## 平成8年度

### フリークライミング教室

期 間 平成8年4月6日(土)～平成9年3月15日(土)  
午前10時～12時・午後1時～3時・午後7時～9時 全18回  
会 場 市内日光橋公園  
参加者 270人  
講 師 佐久間 直冬